

瀬・淵の連続

那珂川中流域のなかで、硬い岩質の狭窄部を流れる区間でも、砂州の発達と共に瀬、淵が交互に見られ、ウグイ、オイカワ、ギバチ、ウツセミカジカ、オオヨシノボリ、シマドジョウ等が見られる。また、国内外来種*のカワムツは那珂川水系の広い範囲に分布を広げている。

きれいな水の砂底に生息する希少なスナヤツメも生息が確認されている。また、春から初夏にかけてはアユの遡上^{さうじょう}が確認でき、漁をする人だけでなく、釣人や観光客^{やま}などの行楽に訪れる人々も多い。秋になるとサケが産卵のために遡上する姿が見られ、汽水性のボラもこの辺りまで遡上してくる。

下野大橋や興野大橋（那須烏山市）周辺には流れの早い瀬があり、近年減少傾向にあるカジカガエルが確認されている。流水には比較的きれいな水に生息するタニガワカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウ、オオヤマカワゲラ、ヘビトンボ、ヒラタドROMシ、ツヤドROMシ、ツヤヒメドROMシ、キスジミゾドROMシなどが生息している。

茂木町川井の大藤橋付近では、かつて大量発生してその死骸が地面に厚く積もって自動車のスリップ事故を引き起こすことで話題になったことのある、オオシロカゲロウが生息している。那珂川のオオシロカゲロウは両性生殖する珍しい個体群であることが知られている。



瀬・淵の連続する中流域（茂木町 6月）

瀬の観光客^{やま}（茂木町 8月）苔^はを食むアユ

(写真：なかがわ水遊園)

* 国内外来種

国内であっても、本来の生息場所ではない場所に移入された生物を指す。それに対し、国外来種は、国外から移入され、もともと日本に生息・生育しない生物を指す。

図 4-36 瀬・淵の連続する中流域



ウグイ(婚姻色)(コイ科)
(写真:なかがわ水遊園)



オオヨシノボリ(ハゼ科)
(写真:なかがわ水遊園)



スナヤツメ*(ヤツメウナギ科)
(写真:稲葉 修氏)

*スナヤツメ(ヤツメウナギ科)
全長20cm。水の澄んだ流れの緩やかな清流に生息し、幼生(アンモシース幼生)は泥の中に潜って有機物や珪藻を餌にする。3~5年目の秋に変態して成魚になる。春から初夏にかけて産卵して一生を終える。



ボラ(ボラ科)
(写真:稲葉 修氏)



カワムツ(コイ科) <国内外来種>
(写真:なかがわ水遊園)



産卵後、力尽きたサケ
(写真:なかがわ水遊園)



ふ化したサケの仔魚
(写真:なかがわ水遊園)

図4-37 中流域の瀬・淵の魚類



カジカガエル (アオガエル科) *
(写真: 小菅 次男氏)



オオヤマカワゲラ (カワゲラ科) **
(写真: 榎日水コン)



ヒラタカゲロウ属の一種(ヒラタカゲロウ科)
(写真: 榎日水コン)



ヘビトンボ(ヘビトンボ科)
(写真: 榎日水コン)



オオシロカゲロウ (アミメカゲロウ科)
(写真: 栃木県立博物館)

図 4-38 中流域の瀬・淵の生物

* カジカガエル (アオガエル科)

体長は雄で 4.5cm, 雌で 8cm ほど。主に丘陵地から山地の川とその周辺の森林に生息している。4~7月に河川中の石の下などで産卵する。

** オオヤマカワゲラ (カワゲラ科)

春から初夏にかけて低山地の溪流周辺で見られる。体長 18~25mm, 前翅長 23~33mm。幼虫は溪流中に棲み、他の水生昆虫を捕食するが、成虫になると口は退化する。